



図2 宮城県の復興計画期間

3. 支援活動年表

当センターは3センター（基幹、石巻、気仙沼）において、国と宮城県の復興計画に沿って活動を展開した。活動の詳細は第Ⅴ章にて後述するが、本章では宮城県の震災復興計画の期間に沿って支援活動を年表として掲載する。

（1）復興期（2011～2013年度）

仙台に基幹センター、被害が大きかった石巻と気仙沼に地域センターを設置した。基幹センターには、地域支援課の他に総務課・企画課を置き、企画課で震災後の心のケアに必要と思われるリーフレットを作成し、要望のあった市町や支援団体などに配布し、各センターで訪問支援の際に活用した。

市町によって被害が異なっていたものの、丁寧に連携を取りながらニーズに沿って支援を提供することは共通していた。同時期より応急仮設住宅等入居者健康調査がはじまり、抽出されたハイリスク者へのフォローに取り組んだ。その多くは家庭訪問であり、この地道な活動が市町との信頼関係構築につながり、当センターの事業内容を理解してもらうことができたと考えられた。さまざまな支援団体から「被災者の心のケア」に関する講話や研修会の依頼が多かった。また、市町や消防署、社会福祉協議会、高齢者施設などの職員自身も被災していることもあり、職員面談やセルフケアの講話依頼もあった。

（2）再生期（2014～2017年度）

応急仮設住宅等入居者健康調査に基づく家庭訪問がピークに達し、圏域ごとの課題が少しずつ明らかになり、各地域センターでも取り組みに特色が出てきた時期だった。各センターとも、地域のニーズに沿ったサロンなど集合型の普及啓発に力を入れて取り組んだ時期でもある。

気仙沼地域センターでは、紙芝居や寸劇を用いた地域の啓発活動に取り組んだ。より広く普及するために紙芝居を複製して県内の全市町村に配布した。地域の関係者で構成されているワーキンググループに参画し、高校生を対象とした心の健康づくり活動に取り組み、希望する学校にチームで訪問して、メンタルヘルスに関わる寸劇をとおして啓発を行った。石巻地域センターでは農地を借り、引きこもりがちな住民を対象として農作業を中心とする活動に取り組んだ。基幹センターでは、アルコール関連問題対策に関わる活動を行った。支援者対象の「保健指導でできる節酒支援」の研修会を保健所や精神保健福祉センターと共催し、住民を対象として「健康的なお酒の飲み方」の研修会を実施した。

（3）発展期（2018～2020年度）

災害公営住宅が完成し、多くの住民の居住地が移った時期でもある。応急仮設住宅から災害公営住宅に移り、応急仮設住宅等入居者健康調査に基づく家庭訪問が減少した。その一方で、市町からの支援依頼で新たに出会う住民は、対応が難しい多問題ケースが多くなった。また、2019年には当センターの2021年度以降の延長が決まり、保健所を中心に圏域ごとの心のケアについての課題検討を行うなど、保健所・市町と課題を共有しながら支援を行った。

気仙沼地域センターは、地域の相談機関として認知されるようになり、直接の問い合わせが増えた。特に教育機関との連携により、若年層への支援が増えたことが特色である。石巻地域センターは、石巻市が行う災害公営住宅の健康調査、ハイリスク者フォローに継続して取り組んだ。また、保育、教育、母子保健などの関係者にむけての研修会に力を入れて取り組んできた。基幹センターでは多問題ケースの相談依頼が増加してきた。当センターの終了を意識し、事例検討会や同行訪問など、市町と共同で実施することを心がけてきた。

第Ⅰ章

復興までの道のり

第Ⅱ章

当センターを
立ち上げるまで

第Ⅲ章

全体の事業展開に
ついて

第Ⅳ章

業務統計報告
事業項目別の経年活動報告

第Ⅴ章

地域センターごとの
活動報告

第Ⅵ章

調査研究報告および
他誌掲載原稿

第Ⅶ章

寄稿

資料

| 気仙沼地域センター | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|--|--------|--------|--|--|--------|--|
| | 復旧期 | | 再生期 | | | | 発展期 | | | |
| | 2012年度 | 2013年度 | 2014年度 | 2015年度 | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | |
| 地域住民支援 | ・セ）相談を受けるための環境整備を行った。 ・セ）関係機関との関係作りを重視した。 ・セ）健康調査結果に基づいた支援が中心となった。 | | ・セ）仮設住宅の利用が次第に解消し、健康調査結果に基づく支援は減少した。 ・セ）センターが周知されてきたこともあり、関係機関からの紹介や本人、家族からの直接相談が増加した。 | | | | ・セ）相談件数は高止まりの状態で推移した。 ・セ）本人、家族からの直接相談や関係機関からの紹介が中心となった。 | | | |
| | 前年度の健康調査結果に基づき市町から依頼された支援 ・気仙沼市：民賃 プレ、民賃 プレ、民賃、公営 民賃 ・南三陸町：プレ、民賃 プレ、在宅 在宅 公営 | | | | | | | | | |
| | 関係機関からの紹介や、本人、家族から直接の連絡に基づいた支援 ・市町、被災者支援団体などからの依頼が中心 | | ・教育関係、福祉関係機関などからの依頼も増える | | | | | | | |
| | | | 看護学校相談窓口開設 ・1校 | | | | ・2校 | | | |
| 支援者支援 | 2012年4月1日 気仙沼地域センター 開所 | ・地）被災した支援者が多い。 ・地）市町では復旧復興業務の負担が大きい。休みが取れない。 ・セ）震災関連の支援者への研修やサポートを実施した。 | | ・地）市町では、復興業務の負担が大きい。 ・地）心のケアのニーズが潜在的にあると思われる。 ・地）復興に伴い、被災者支援スタッフが置かれた状況は変化が続く。 | | | | ・地）市町では、部署により復興業務の負担が大きい。 ・地）被災地外からの応援職員の撤退が続く。 ・地）心のケアのニーズが潜在的にあると思われる。 | | |
| | | 市町職員の健康支援 ・市町、関係支援団体と協議、連携して相談窓口開設、研修、啓発物配布などを実施 | | | | | | 市町と連携して相談窓口開設、研修、啓発物配布などの実施 | | |
| | | 社協など被災者支援団体職員の健康支援 ・予防講座と連携して個別支援、研修などを実施 | | | | | | | | |
| | | 出向職員配置 ・気仙沼市：1名 | | ・気仙沼市・南三陸町：各1名（市町保健師の業務補助） | | | | | | |
| | | 関係機関の事業への協力 ・研修開催、講師派遣など | | ・事業実施や事業内容の検討に協力 | | | | | | |
| | | ・セ）被災による精神的影響があり、相談先の周知が必要と考えた。 | | ・セ）センターが相談先として周知されることに伴い、仮設住宅や公営での講話依頼が増加した。 ・セ）住民にとって親しみやすい手法を模索し、啓発媒体を作成した。 ・セ）市町保健師と事業を共同で実施した。 ・セ）復興に伴う新たな地域課題への対応が求められる。 | | | | ・セ）自治会や保健推進員などからも講話依頼があり、活動の場が広がった。 ・セ）啓発媒体の作成と配布を行った。 ・セ）コミュニティラジオを通じての啓発活動を開始した。 ・セ）市町保健師と事業を共同で実施した。 ・セ）震災被害の有無に関わらず地域全体を対象とした啓発活動が求められる。 | | |
| | | 依頼に基づいた研修などへの講師派遣 ・仮設住宅のお茶会などの場で実施 | | ・仮設住宅や公営のお茶会などの場で実施 | | | | ・自治会行事など地域の中で実施 | | |
| | | 啓発媒体の作成 ・リーフレット作成（随時配布） | | ・紙芝居やクイズなどの作成 | | | | | | |
| | | 市町との共同実施 ・心カフェ（2012～2018） | | ・南三陸町アルコール関連問題対策事業（紙芝居）（2016～） ・気仙沼市/南三陸町自殺（自死）男活（2017～） ・予防に関する取り組み（2019～） | | | | | | |
| | | 市町などへの協力 ・気仙沼市健康フェスティバル（ブース開設・年1回） ・わかちあいの会 | | ・高校生を対象とした啓発活動（2015～2019） ・南三陸町福祉・健康まつり（ブース開設・年1回） | | | | | | |
| メディア ・三陸新報コラム掲載（保健所と共同・2015～） | | ・ラジオ番組制作放送（2017～） | | | | | | | | |
| 人材育成 | ・セ）仮設住宅支援員へ対人援助技術研修を実施した。 ・地）アルコール関連問題の増加や顕在化が見られる。 | | | | | | ・セ）アルコール関連問題や精神疾患のある人への理解を深める研修を実施した。 | | | |
| | 震災心のケア交流会みやぎ（年1回） ・気仙沼会場 ・南三陸会場 ・気仙沼会場 ・南三陸会場 | | | | | | | | | |
| | 依頼に基づいた研修などへの講師派遣 内容：傾聴などの対人援助技術、アルコール関連問題や精神疾患、セルフケアや職場のメンタルヘルスなど ・被災者支援スタッフ対象の依頼が中心 | | ・地元関係機関などからの依頼も増える | | | | ・就労支援事業所職員向けSST研修（月1回） | | | |
| 注）4桁の数字は、年度を表す。 注）表の中の略語は以下のことを示す。 ・セ）：センターの状況や取り組み ・地）：地域で見られる状況 ・仮設住宅：応急仮設住宅（プレハブ住宅と民間賃貸借上住宅） ・プレ：プレハブ住宅 ・民賃：民間賃貸借上住宅 ・公営：災害公営住宅 ・在宅：応急仮設住宅や災害公営住宅以外の住宅 | | | | | | | | | | |

| 石巻地域センター | | | | | | | | | |
|----------|--|--------|--------|--|--------|--------|---|--------|--------|
| | 復旧期 | | | 再生期 | | | | 発展期 | |
| | 2012年度 | 2013年度 | 2014年度 | 2015年度 | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 |
| 地域住民支援 | ・地域で活動する機関、団体等への挨拶と顔の見える関係づくり | | | ・地域で活動する機関、団体等からの紹介による相談事例の増加 ・被災者のニーズへの支援の充実 ・サロン活動の終了までの準備と実践 | | | ・支援団体の撤退に伴う、被支援者の引継ぎ ・サロン活動の終了までの実践 | | |
| | 応急仮設住宅等入居者健康調査個別相談・訪問 ・民賃・プレ | | | 公営 | | | | | |
| | 関係機関からの紹介や、本人、家族からの直接相談 | | | ・自治体、被災者支援団体などからの依頼が中心 | | | | | |
| | 地域住民サロン活動（居場所づくり） ・民賃入居者作品展覧会＆交流会 | | | ・年1回開催 | | | | | |
| | ・手芸（ちぎり絵）教室2013～2017 | | | ・生活教室（在宅精神障害者支援）2015～2017 | | | | | |
| | ・ここファーム（畑作業） | | | 月2回開催 | | | | | |
| | センター非常勤精神科医の支援（女川町） ・個別相談会 | | | 月1回 | | | 隔月1回 | | |
| | | | | | | | ・個別相談会、地区に向き健康講話を開催2018～年1回 | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| 支援者支援 | ・依頼のあったことについてはできる限り応えていく方向で対応 ・健康調査への協力と訪問の中で被災者のニーズ把握 | | | ・地域で活動する機関、団体等からの紹介による相談事例の増加 ・出向者との月1回の話し合いの実施 ・出向者、市町との話し合いに発展 ・エリアミーティング、ケース会議での情報共有、各支援機関との顔の見える関係づくり | | | ・出向者撤退を伝えることと、出向者は業務の終結に向け準備 ・撤退後の支援のあり方について、市町と話し合い | | |
| | 2012年4月1日 | | | 出向職員配置（自治体保健師の業務補助等） | | | | | |
| | 石巻保健所・石巻市各1名・東松島市・女川町各2名 | | | 石巻保健所終了2014 | | | 東松島市・女川町各1名 | | |
| | 石巻市終了2019 | | | | | | | | |
| | 社協・仮設支援員・自治体職員の健康支援 ・予防講座と連携して個別支援、研修などを実施 | | | | | | | | |
| | 被災者支援関係者向け研修及び個別相談 ・社協・仮設支援員・包括・介護職員等へ傾聴などの対人援助技術、セルフケアなどの内容で実施 | | | | | | | | |
| | 乳幼児健診支援 ・石巻市河北ブロック・牡鹿地区・東松島市・女川町へ保健師等の派遣 | | | | | | 石巻市本庁地区のみ派遣 | | |
| | 市町、支援機関への協力 ・特定健診心の相談（東松島市） | | | 特定健診（r-GTP高値）個別訪問（東松島市） | | | 向陽市営団地健康相談会（石巻市） | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| 普及啓発 | ・地域からの相談が多いアルコール問題に関して、住民及び保健推進員等への研修会の開催 | | | ・地域から要望のあった研修会を総合支所と共同で実施、その後断酒会ミーティング体験会に発展 ・関係機関との連携による研修会開催の検討 | | | ・断酒会ミーティングの自立に向け、断酒会との連携を強化 | | |
| | 講師派遣依頼への対応 | | | ・傾聴・アルコール関連問題、セルフケアについて、婦人会・地区教室・食改・保推・介護職員等への講話 | | | | | |
| | | | | アルコール研修会 ・石巻市河北総合支所と連携 | | | | | |
| | | | | 断酒会ミーティング体験会（交流の場づくり） ・石巻市河北地区会場 | | | ・石巻市河北地区会場 ・石巻市河北地区会場 ・断酒会ミーティングに名称変更 | | |
| | | | | | | | | | |
| | ・地域で活動する機関と連携した研修会などの実施 ・仮設支援員などの支援者向けの研修会の実施 | | | ・震災心のケア交流会in石巻を地域で活動する機関、団体等の協力（実行委員会）で開催することで連携の強化 ・保健所、市町との共催による研修会の実施 ・全県を対象にした子どもに関する研修会の実施 | | | ・石巻圏域の心のケアに関するワーキンググループが活動を開始し、保健所との関係が強化され、共催事業が増える | | |
| | 震災心のケア交流会 ・顔の見える関係づくり | | | ・関係団体による実行委員会方式で開催2015～ | | | | | |
| | アルコール研修会・事例検討会 ・地域で支えていくための支援者のスキルアップ | | | ・保健所との共催、石巻市・東松島市・女川町への支援 | | | | | |
| | | | | 自死対策研修会 ・石巻保健所と共催 | | | 石巻保健所と共催 石巻保健所への支援 ・ケースレビュー、同行訪問 | | |
| | 子どもの心のケア研修会 ・保育・教育・母子保健等関係者向けの広域研修 | | | ・石巻圏域研修も開催2017～ | | | (コロナ禍で中止) | | |

注）応急仮設住宅：プレハブ住宅と民間賃貸借上住宅 プレ：プレハブ住宅
民賃：民間賃貸借上住宅 公営：復興公営住宅（石巻市）災害公営住宅（東松島市：女川町）

第Ⅰ章

復興までの道のり

第Ⅱ章

当センターを
立ち上げるまで

第Ⅲ章

全体の事業展開に
ついて

第Ⅳ章

業務統計報告
事業項目別の経年活動報告

第Ⅴ章

地域センターごとの
活動報告

第Ⅵ章

調査研究報告および
他誌掲載原稿

第Ⅶ章

寄稿

資料

基幹センター地域支援課

| 復旧期 | | | 再生期 | | | | 発展期 | | |
|--|--|---|---|--|--------|--------|--|--------|--------|
| | 2012年度 | 2013年度 | 2014年度 | 2015年度 | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 |
| 地域住民支援 | 被災地域4市4町と避難地域の2町を支援。応急仮設住宅等入居者健康調査のハイリスク者訪問の依頼があり各市町の実情に応じての支援を開始した。 | | ・災害公営住宅の整備がすすみ、健康調査のハイリスク者訪問の依頼は続いた。また、対応困難事例についての訪問も依頼されるようになった。 ・多量飲酒者への対応に苦慮したことから、節酒を目的とした男性対象の「健康サロン」を市と保健所との共催で開始したり、福島県からの避難者の「うつくしまサロン」や民賃居住者の交流の場を提供した。 | | | | 乳幼児から高齢者までの対応困難ケースへの依頼が増加してきた。当センターの終了を見据え、市町との共同での支援を心掛けた。 | | |
| | 応急仮設住宅等入居者健康調査に基づき、自治体から依頼された支援 ・民賃、プレ 公営 | | | | | | | | |
| | 応急仮設入居者支援 ・プレでの健康相談(塩竈市、名取市) | | ・民賃入居者交流サロン(塩竈市会場) 地域住民サロン ・健康サロン(節酒を目的とした男性サロン) 名取市、塩釜保健所岩沼支所と共催 自主化で終了 運営に協力 ・うつくしまサロン(2017年度より主催) | | | | ・公営・被災地域での講話と相談(名取市、多賀城市) | | |
| | | | 大雨等による被災町への支援 ・関東東北豪雨支援(大和町) | | | | ・台風19号水害支援(丸森町) | | |
| 支援者支援 | 2012年4月1日 基幹センター地域支援課開設 | ・各地域で行われている市町や関係機関のミーティング等に参加し、情報の収集と当センターのPRを行った。 ・市町の要望に応じて、出向者の配置と、当課からの定期支援を行った。 | | 市町への継続した支援を行う中で信頼関係が構築され、対応困難事例の支援を徐々に依頼されるようになり、事例検討会でのコンサルテーションも求められるようになった。また、被災者支援以外の支援会議への出席依頼が増えてきた。 | | | 被災者支援から、各ライフステージにおける精神保健福祉活動に移行してきた。保健所や関係機関との連携がすすみ、支援会議への参加依頼や対応困難事例への対応依頼が増加してきた。 | | |
| | | 出向職員を配置 ・塩竈市(2012 - 2019年度)、岩沼市(2013 - 2014年度)、名取市(2012 - 2020年度) | | | | | | | |
| | | 市町、社協、支援団体への健康支援(講話、面談) ・支援団体(岩沼市、名取市、多賀城市、亘理町)、社協(山元町)、自治体(山元町)市町が研修・相談を事業化して終了 | | | | | | | |
| | | 被災者連絡会での研修会、事例検討会を市町と共同で実施 ・塩竈市、名取市、山元町、亘理町 精神、母子支援会議での助言 困難事例への対応依頼の増加(全市町) | | | | | | | |
| 普及啓発 | | ・訪問の際にメンタルヘルスに関するパンフレットを配布。 ・市町の要望により、被災者対象の研修会へ講師を派遣 | | 震災を契機に広まったメンタルヘルスに対する啓発を、市町との連携のもと、全住民を対象にした健診会場や地域、健康まつりなどで行った。 | | | ・市町、保健所と共に、地域でのメンタルヘルスの啓発事業の継続を図った。 | | |
| | | 依頼に基づいた研修への講師派遣およびパンフレットの配布 ・アルコール関連、傾聴、うつ、睡眠、ストレスとの上手な付き合い方などの講話 | | | | | | | |
| | | 市町への協力 ・健診会場での相談対応(岩沼市、松島町)、健康づくり教室(山元町)、健康まつり(山元町、松島町) | | | | | | | |
| | | コミュニティラジオに出演(名取市) ・メンタルヘルス講話を担当 | | | | | | | |
| 人材育成 | | ・被災者支援に従事している、各団体からの要望により「被災者の心のケア」に関する研修会を多数行った。 | | ・地域の担い手である、民生委員や保健協力員を対象とした研修会の講師依頼が増加。 ・アルコール依存症の予防としての「節酒研修会」を県と共催し、県の事業へと移行した。 | | | ・子どもから高齢者までの、それぞれの支援者とともに、事例検討会や事例に関する研修会を行った。 | | |
| | | アルコール研修会 ・アルコール依存症対応の研修 | | 節酒支援研修(塩釜保健所岩沼支所、精保センターと共催) | | | ・県の事業へ移行 | | |
| | | 依頼に基づいた研修などへの講師派遣 被災者支援スタッフ、社協、市町職員、社会福祉事業所などへの研修の実施 | | | | | | | |
| 注) 応急仮設住宅：プレハブ住宅と民間賃貸借上住宅 プレ：プレハブ住宅 民賃：民間賃貸借上住宅 公営：災害公営住宅 | | | | | | | | | |

注) 応急仮設住宅：プレハブ住宅と民間賃貸借上住宅 プレ：プレハブ住宅 民賃：民間賃貸借上住宅 公営：災害公営住宅

| 企画研究課 | | | | | | | | | | | |
|--------|--|--------|--------|--|--------|--------|--------|---|--------|--------|--|
| | 復旧期 | | | 再生期 | | | | 発展期 | | | |
| | 2011年度 11月 | 2012年度 | 2013年度 | 2014年度 | 2015年度 | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | |
| 活動の状況 | ・ 2011年11月に準備室が設置され、開設準備を開始。当センターの業務内容を自治体や関係機関に理解いただくことからスタート。外部支援の受け入れと調整を行ったほか、自治体職員間や支援活動団体間の交流・意見交換の機会を設けた。また、他県心のケアセンターとの連携を図った。 ・ 被災地の親子を対象としたデイキャンプ事業や報道機関向け研修、震災後問題が表面化したアルコール関連問題の研修などを行った。 | | | ・ 仮設住宅から災害公営住宅への転居等に伴う孤立など新たな課題が生じており、アルコール関連問題の研修に引き続き取り組み、市町職員や社会福祉協議会職員など支援者への支援を行い、事業者向けにメンタルヘルスに関する出前講座などによる普及啓発を図った。 ・ 東北大学予防講座との共催により、被災者支援専門研修などを行い、人材育成を図った。 ・ これまでの被災地における心のケアの実践と課題をまとめ、今後の全県的な地域精神保健福祉の再構築について議論を深めるため、「心のケアフォーラム」などを開催した。 | | | | ・ 2020年度で活動終了を前提に、「活動の取りまとめ」および「今後に向けた検討」を行った。全般的には業務は高止まりの傾向にあり、一部の事業縮小を除き、引き続き、アルコール関連問題やひきこもりなど地域の支援者のニーズに合った各種事業を継続してきた。 ・ 2025年度まで当センターの存続が決まったが、当センターの事業を県や市町にどう引き継ぐかが課題である。 | | | |
| | * 来所・電話相談等地域支援課業務への協力 | | | | | | | | | | |
| 地域住民支援 | | | | | | | | | | | |
| | * 社会福祉協議会職員への健康調査 | | | | | | | | | | |
| 支援者支援 | * サポーターズクラブ運営 | | | | | | | | | | |
| | * アルコール関連問題対策事業（東北会病院） | | | | | | | | | | |
| | * アルコール関連問題対策事業（宮城県断酒会） | | | | | | | | | | |
| | * 子どもの心のケア（専門家派遣） | | | | | | | | | | |
| | * 各種啓発用パンフレット作成・配布（PTSD・うつ病・飲酒・ストレスケアなど） | | | | | | | | | | |
| | * メディアへの対応 | | | | | | | | | | |
| | * ホームページ設置 | | | | | | | | | | |
| | * 広報誌発行 | | | | | | | | | | |
| 普及啓発 | * メールマガジン | | | | | | | | | | |
| | * 被災地の子どものためのキャンプ | | | | | | | | | | |
| | * 健康づくり出前講座 | | | | | | | | | | |
| | * 統計システムの構築・運用 ・ 統計システムのID化 ・ 個別支援システム運用開始 | | | | | | | | | | |
| | * みちのく子どもコホート | | | | | | | | | | |
| | * 定例職員研修 | | | | | | | | | | |
| | * 3県心のケアセンターミーティング | | | | | | | | | | |
| | * アルコール関連問題東北会病院実地研修 | | | | | | | | | | |
| 人材育成 | * 被災者支援専門研修など | | | | | | | | | | |
| | * メディアカンファレンス | | | | | | | | | | |
| | * 震災心のケア交流会（全県対象） | | | | | | | | | | |
| | * 心のケアフォーラム | | | | | | | | | | |
| | * 子どものためのPFA研修 | | | | | | | | | | |
| | * WHO版PFA研修 | | | | | | | | | | |